

## 1. 企画概要

私たちの目的は次の5つです。

- ・クラウドサービスの利用方法を学ぶ
- ・実践力の獲得
- ・IoT技術の習得
- ・チームでのシステム作成方法の習得
- ・自分たちの実力を全国で試す



図 1: D2C コンテスト ロゴ

上記の目的を達成するため、組み込み機器（デバイス）をクラウドへつなぐことで広がる可能性を探求し、使って楽しく、役に立つアイデアを実現する「D2C コンテスト」に参加しました。目標は便利なシステムを作成し、このコンテストで優勝することです。私たちは2チームに分かれシステムを開発しました。システムの名前は、Aチームが「自転車駐輪場における自動防犯システム」、Bチームが「観光画像による客観評価システム」です。

## 2. 活動内容

### 2-1 予選に応募

8月中旬に、D2C コンテストにエントリーしました。

### 2-2 技術トレーニング

8月23日に神奈川県にある情報科学専門学校にて、コンテストで利用するクラウドサービス「Azure」のIoT向けサービスに関する勉強会が行われました。私たちのうち代表4名はこの勉強会に参加し、Azureの基本的なシステム構成の方法を学びました。

### 2-3 システム開発

各チームは技術トレーニングで得た情報を基に作るシステムの具体的な設計を計画し、コンテスト運営からAzureアカウントが送られてきた10月3日からシステム作成を開始しました。

システム開発はクラウド班・デバイス班・Web班に分かれ、Azureアカウントが送付されるまでの間は利用するサービスの調査やテストシステムの作成を行いました。Azureアカウント受け取り以降は計画したシステムを各班で作成しました。

### 2-4 予選審査

D2Cコンテストの予選は企画・開発したシステムの構想設計書及びプレゼンテーションビデオによって行われ、10月25日にコンテスト本部へこれらのデータを送付しました。

予選の結果は11月9日に発表されました。発表の結果両チームとも予選を通過し、決勝大会へと進出しました。決勝大会までの期間もシステムをさらにブラッシュアップし、決勝大会でより良いプレゼンができるよう努めました。

## 2-5 決勝大会

12月8日に、東京都の日本マイクロソフトの会場にて決勝大会が開かれ、システム動作実演を含むプレゼンテーションで審査が行われました。審査の結果、Aチームが準優勝という結果を残すことができました。

審査後には出場者や審査員との交流会があり、他チームのシステムの意見交換を行いました。



図2 Aチーム作成デバイス



図3 Bチーム作成デバイス

## 3. まとめ・反省等

HIT チャレンジ選考会で発表した段階では作成するシステムが明確ではなく、チームメンバー間でどのようなシステムをどのように作るのか明確には共有できていませんでした。そのような状態であるにもかかわらず、システムに利用できそうな知識・技術を各々の基準で学んでしまい、システムの作成に費やすべき時間を無駄にしまいました。また、メンバーの日程管理がうまくいかず、役割が均等に配分されなかったり、集まることができなったりして、チームがあまりまとまりませんでした。

しかし、後半はこの経験を活かし「どのようなシステムをつくるか」と「自分たちの力のできるか」のバランスをチームメンバーで明確にし、システム作成を行いました。また、やるべきことを細分化しそれぞれに期限を設けることで、進捗度合いを確認しながら作業を進めることができました。

D2C コンテスト決勝大会では、Aチームが準優勝を収めました。当日の発表時にシステムの不備がありシステムが上手く動作しなかったため、減点となり優勝を逃してしまいました。これを踏まえ、システムを実際の現場で使えるレベルまで成長させようと考えています。